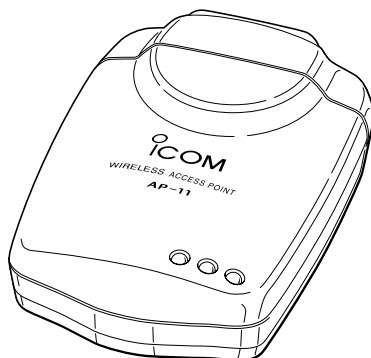




WIRELESS ACCESS POINT **AP-11**



本書の内容

- 1章：安全上のご注意
- 2章：概要
- 3章：各部の名称と機能
- 4章：設置する
- 5章：接続する
- 6章：コンピュータの設定
- 7章：AP-11マネージャ
- 8章：こんなときは
- 9章：設定例
- 10章：ご参考
- 11章：お問い合わせについて
- 12章：定格
- 13章：用語解説

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、無線LAN機能を備えたWIRELESS ACCESS POINTです。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品について

本製品の設定は、すべて専用のAP-11マネージャから行えます。

最大256台の無線端末が接続できます。

本製品の対応OS（オペレーションシステム）は、Windows98/SE、WindowsME、Windows2000です。

無線LANと有線LANの環境を融合するネットワークの構築が簡単に実現できます。

無線アクセスポイント機能とローミング機能を搭載しています。

11Mbps対応の無線アクセスポイント通信および10BASE-Tによる有線LAN通信に対応しています。

下記の弊社製無線通信LANカード（ユニット）に対応しています。

(2001年2月現在)

SL-1100、SL-1105、SU-11

ESSID設定やWEP機能による暗号化処理など、高度なセキュリティー機能を搭載しています。

登録商標について

アイコム、アイコム株式会社、COM、Icom Inc. はアイコム株式会社の登録商標です。WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

はじめに

無線通信LANカードについて

本製品の通信チャンネルの設定を14チャンネル以外でご使用になるときは、つぎに示す「電波干渉に関するご注意」を必ずお読みください。

電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)が運用されています。

- 1.この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2.万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための対処等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。
- 3.その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：

.....アイコム株式会社 サービス課 06-6792-4949

情報処理装置等電波障害自主規制について

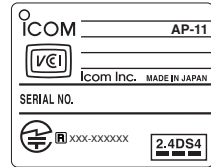
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやTV受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

電波法上のご注意

本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。
本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造されています。したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。また、その国の法令に抵触する場合がありますので、使用しないでください。

機器本体に、右図のような技適証明マークと技適証明番号および認定番号が印刷されたシールが貼られていることを確認してからご使用ください。

機器本体に、右図のようなシールが貼られているときは、必ず「電波干渉に関するご注意」（左ページ）をお読みください。



ユーザー登録について

本製品のユーザーサポート用愛用者カードに必要事項をご記入いただき、必ずご返送ください。

ご返送いただけない場合、サポートサービスをご提供できませんのでご注意ください。

目次

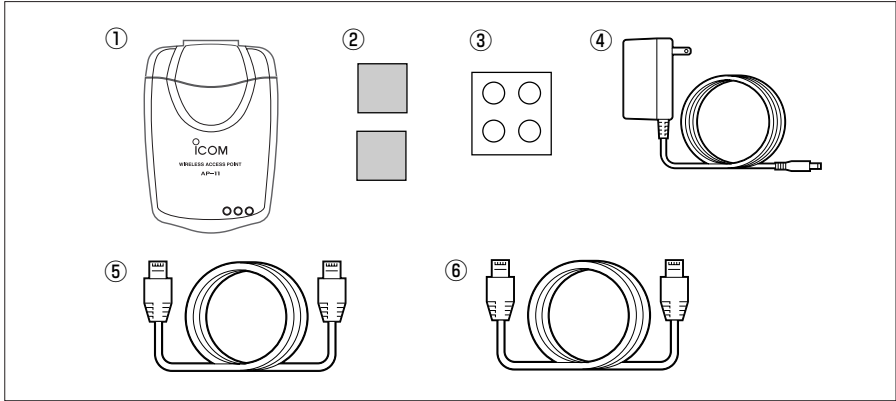
はじめに
目次
付属品

| | | |
|------------|---------------------------------|----|
| 第1章 | 安全上のご注意(必ずお読みください。) | 1 |
| 第2章 | 概要 | 4 |
| | ワイアレスアクセスポイント | 4 |
| 第3章 | 各部の名称と機能 | 6 |
| | 前面/後面パネル | 6 |
| 第4章 | 設置する | 7 |
| | 設置方法と設置場所 | 7 |
| | 【設置のご注意】 | 8 |
| | 【棚板の上などに設置する場合の注意！】 | 9 |
| | 【接続のご注意】 | 9 |
| 第5章 | 接続する | 10 |
| | 5-1本製品設定時のコンピュータとの接続 | 10 |
| | 5-2ネットワークへの接続 | 11 |
| 第6章 | コンピュータの設定 | 12 |
| | 6-1セットアップウィザードを使う | 12 |
| | 6-2ユーティリティソフトウェアをインストールする | 18 |
| 第7章 | AP-11 マネージャ | 21 |
| | AP-11 マネージャの起動 | 21 |
| | アクセスポイントに接続する | 22 |
| | 無線設定 | 24 |
| | IP設定 | 26 |
| | セキュリティ (WEPキー) | 27 |
| | ステーション一覧 | 29 |
| | オプション | 30 |
| | バージョン情報 | 31 |
| 第8章 | こんなときは | 32 |
| | AP-11 と接続できない | 32 |
| | 本製品への接続を確認するには | 36 |
| | AP-11 マネージャのアンインストール | 37 |

| | | |
|------|-------------------------|----|
| 第9章 | 設定例 | 38 |
| 第10章 | ご参考 | 39 |
| | 10-1 設定項目の初期値について | 39 |
| | 10-2 機能一覧 | 39 |
| | 10-3 Ethernetポート | 39 |
| 第11章 | お問い合わせについて | 40 |
| | 故障のときは | 40 |
| 第12章 | 定格 | 41 |
| | 一般定格 | 41 |
| 第13章 | 用語解説 | 42 |

付 属 品

AP-11同梱品



| | |
|--------------------------------|------|
| ①AP-11 (本体)..... | 1台 |
| 付属品 | |
| ②本体固定用シート..... | 2セット |
| ③緩衝用シート..... | 1枚 |
| ④ACアダプター..... | 1個 |
| ⑤イーサネットケーブル (ストレート結線: 3m)..... | 1本 |
| 本体-HUB間: ネットワーク接続用 | |
| ⑥イーサネットケーブル (クロス結線: 1m)..... | 1本 |
| 本体-PC間: 設定用 | |
| ユーティリティ(CD)..... | 1枚 |
| ユーザーサポート用愛用者カード | |
| 取扱説明書 | |
| 保証書 | |
| 電波干渉注意シール | |

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- 次の『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。

■ WIRELESS ACCESS POINT について



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

付属品のACアダプター以外は使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。指定以外の付属品、および別売品は使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。DCジャック以外の端子に電源を接続しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

電源コードや接続ケーブルに、赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、設置してください。

感電、けがの原因になります。

完全調整していますので、分解、改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

通気口をふさがないでください。発熱などにより、火災、感電、故障の原因になります。

水などでぬれやすい場所(加湿器のそばなど)に設置しないでください。火災、感電、故障の原因になります。本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。

感電の原因になります。

万一、煙が出ている、変なにおいがする、変な音をする、水などが入った場合は、使用を中止してください。

そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。

すぐに、本製品に接続するACアダプターのプラグとその他のケーブル類を取り外してください。

煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。

1 安全上のご注意

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

屋内専用です。屋外に設置しないでください。

故障の原因になることがあります。ぐらついた台の上や、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。

落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。

湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所には設置しないでください。

故障の原因になることがあります。

直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所では使用しないでください。

変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

説明とは異なる接続をしないでください。また、本製品への接続を間違えないように十分注意してください。

故障の原因になることがあります。

強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度が、取扱説明書に定めた使用環境を超えるところでは使用しないでください。

故障の原因になることがあります。

テレビやラジオの近くで使用しないでください。

電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。

けが、故障の原因になることがあります。

上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。

故障の原因になることがあります。

近くに雷が発生したときは、ACアダプターを接続しているコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

ケーブルの接続や切断、または製品の導入や保守の作業も行わないでください。

火災、感電の原因になることがあります。

結露するような場所で使用しないでください。温度差の激しい環境を急に移動した場合、結露するおそれがありますのでご注意ください。

変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

結露した場合、乾燥させるか、長い間同じ環境に置いたあと、ご使用ください。

長時間、使用しないときは、安全のため本製品に接続するACアダプターを取り外してください。

発熱、発火、故障の原因になることがあります。

清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。

ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■ ACアダプターについて

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

AC 100V以外の電源電圧で使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。その他の機器で使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。ACアダプターを加工したり、加熱したりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
ACアダプターの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

ACアダプターを抜き差しするときは、必ず本体の部分を持って行ってください。
火災、感電、故障の原因になります。ぬれた手でACアダプターや機器に絶対触れないでください。
感電の原因になります。
ACアダプターが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
火災、感電、故障、データの消失または破損の原因になりますので、お買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

取り扱い上のご注意

動作中に接続ケーブルなどが外れたり、接続が不安定になると、誤動作の原因になります。コネクターをしっかりと接続して、動作中は、コネクターの接続部に触れないでください。

コンピューターおよびその他の周辺機器の取扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。

本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。このようなときは、本製品を、妨害を受けている機器からできるだけ離して設置してください。本製品に付属するユーティリティCDは、本機専用ですので、本機以外の製品で使用しないでください。

本製品の設定データファイルや弊社ホームページより提供されるファームウェアアップデート用データファイルを、本製品以外の機器に組み込んだり、改変や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

本書の著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。

本書の内容の一部または全部を無断で転用することは、禁止されています。

本書およびハードウェア、ソフトウェア、外観の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

2 概要

ワイアレスアクセスポイント

【インフラストラクチャーモード】

無線LANには2つの通信モードがあります。一つは無線LAN端末だけでネットワークを構成する「アドホックモード」です。弊社SL-1100/1105無線LANカードやSU-11無線LANユニットを取り付けたコンピュータ同士でデータのやりとりが行えます。(右図参照)

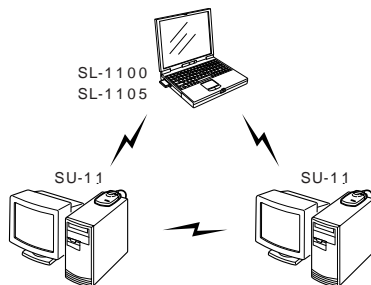
もう一つが、本製品のようにアクセスポイントと呼ばれる中継装置を使う「インフラストラクチャーモード (Infrastructure mode)」です。

このインフラストラクチャーモードの場合は、アクセスポイントを経由して無線LAN端末同士のデータをやりとりしたり、アクセスポイントに用意されているイーサネットポートと既存の有線LANをイーサネット (Ethernet) ケーブルで接続することによって、無線LANと有線LANのデータを自由にやりとりをすることができます。(例-1/2参照)

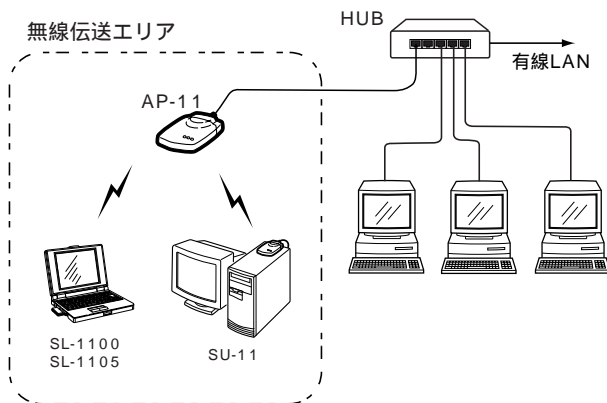
また、有線LANにルーターを接続することにより、無線LAN端末からインターネットに接続することも可能になります。

本製品には最大256台の無線端末を接続できます。

【アドホックモード (例)】



【インフラストラクチャーモード (例-1)】

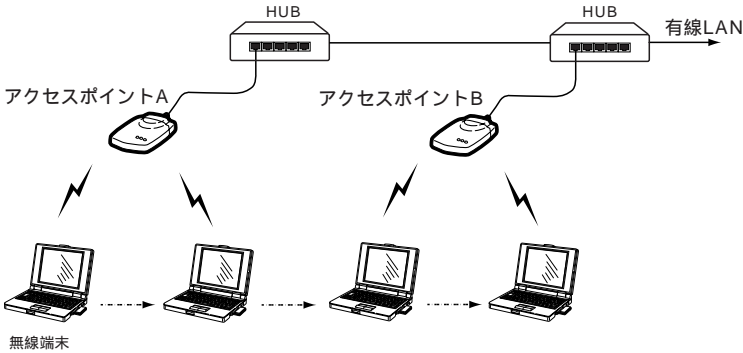


【マルチチャンネル・ローミング機能】

本製品を2台以上用意してそれぞれを有線LANに接続することにより、無線端末を移動させても、自動的に電波の状況のよいアクセスポイントに切り替える「マルチチャンネル・ローミング機能」を利用できます。

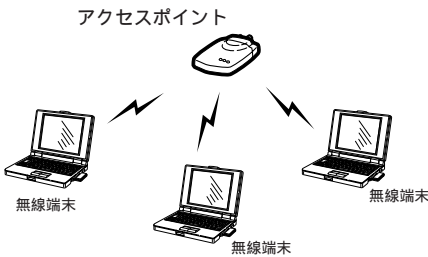
この機能を利用すると、工場や倉庫のように広い場所で移動しながらネットワークが利用できるようになります。

【マルチチャンネルローミング（例-2）】

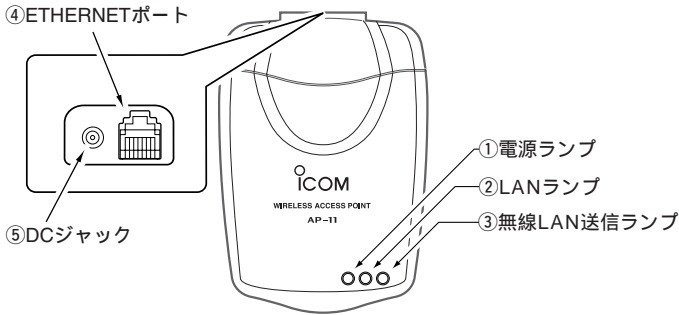


また、例-3のようにアクセスポイントだけを使ってインフラストラクチャモードを構成することも可能です。ただし、このようなネットワーク構成の場合、本製品を2台以上用意しても「マルチチャンネルローミング機能」は使用できません。

【インフラストラクチャーモード（例-3）】



前面/後面パネル



① [POWER]ランプ

AP-11に電源が入ると、点灯します。

② [LAN]ランプ

有線LAN(Ethernet)による接続が正常であるとき点灯します。

有線LANで通信中は点滅します。

[Ethernet]ポートが接続を認識できないときは点灯しません。LANケーブルの結線を確認してください。

③ 無線LAN送信ランプ

データを送信中に点滅します。

④ [Ethernet]ポート

Ethernet(イーサネット)ポート(RJ-45型)です。

付属のEthernetケーブル(ストレート結線)を使って、HUBに接続します。

付属のEthernetケーブル(クロス結線)を使って、コンピューターに接続し、各種の設定を行います。設定には、付属ユーティリティの「AP-11マネージャ」および「簡単セットアップウィザード」を使用します。

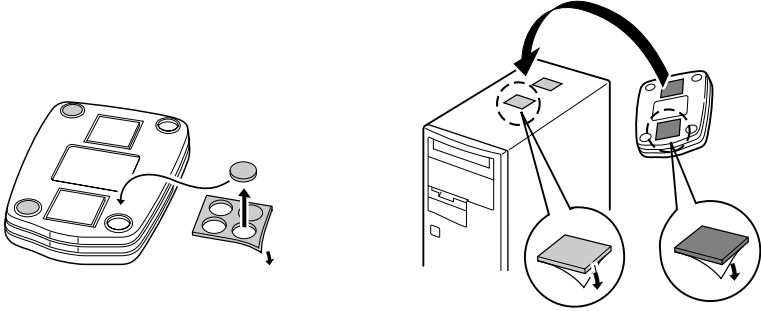
カテゴリーの低いEthernetケーブルを同じLAN上に混用すると、一番低いグレードに全体のレベルが低下するので、ご注意ください。

⑤ DCジャック

付属のACアダプターを接続します。

設置方法と設置場所

本製品を設置する場合は、以下の図を参照して、付属の緩衝用シート（ゴム足）を本製品の4隅に取り付けるか、付属の本体固定用シートを使用して壁面や棚などに固定してご使用ください。



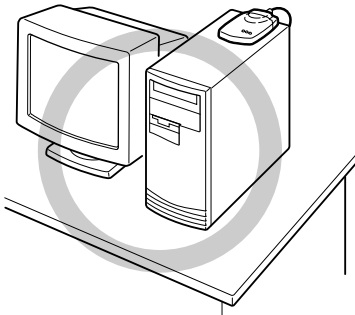
保護シートをはがして取り付けてください

3

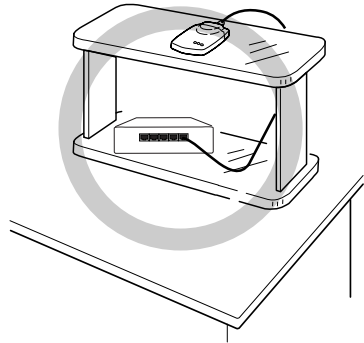
4

【よい設置方法】

デスクトップパソコンの上、など

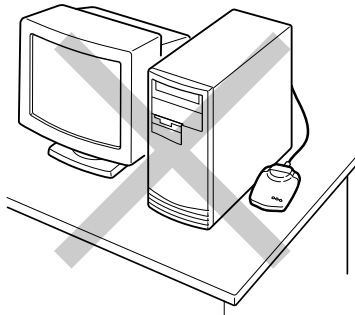


書棚の上など

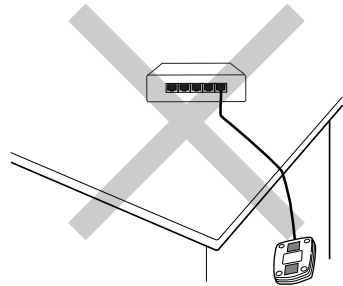


【悪い設置方法、伝送速度や通信距離に影響を与えることがあります】

金属製の障害物のそばには設置しない



不安定な設置は通信も不安定になります



1 設置する

【設置のご注意】

無線アクセスポイントを使って通信する場合、設置場所に注意しないと、混信したり通信範囲や速度に影響します。以下の項目に注意して設置してください。

なるべく見通しの良い(高い)場所を選んでください。

無線端末機器の中心にアクセスポイントがくるように配置してください。

振動や傾きが無く、落下の危険がない安定した場所を選んでください。

その他；

- 本製品の上に物を置いたり、本製品どうしやほかの製品と重ねて置かないでください。
- 強い電波が飛び交う環境(無線局の近く)や強い電磁波が放射(送電用鉄塔付近)される近くには置かないでください。
- 床にはふつう、鋼製の梁がはいっており、金属製防火材が埋め込まれていることもあります。そのため多くの場合、違う階どうしでは通信できません。
- 通信範囲はオープンスペースが最も広くなりますが、倉庫の中のように大きな金属製の壁があると、電波を反射することがあります。
- 電波は壁やガラスを通過しますが、金属は通過しません。コンクリートの壁でも、金属補強材が埋め込まれていて、電波信号を遮断する場合があります。
- HUBへの接続は付属のストレート結線のEthernetケーブル(3m)をご使用ください。別途付属しておりますクロス結線のEthernetケーブル(1m)はHUBとの接続には使用することができませんのでご注意ください。
- 付属のストレート結線のEthernetケーブルで長さが不足するような場合は、別途、市販のストレート結線のEthernetケーブルをご用意します。

【通信距離】

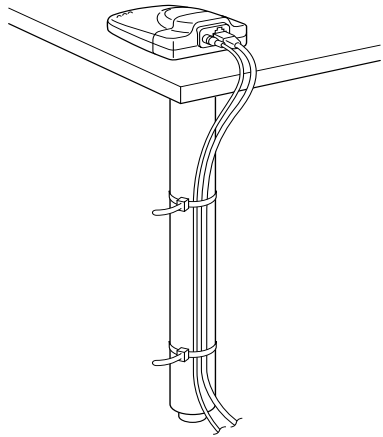
通信距離は、設置場所によって多少異なりますが、無線通信端末に弊社製無線LANカード(ユニット)SL-1100/SL-1105/SU-11を使用する場合、以下の見通し距離を参考に設置してください。

伝送速度=11Mbps時

屋内：約30m

【棚板の上などに固定する場合の注意！】

本製品は小型・軽量に設計されております関係上、比較的高い棚の上に設置するような場合、付属の固定用シートを使って固定を行っても、本製品に接続されたDCコードやEthernetケーブルが人体に触れたりした場合や、ケーブル自身の重みで本製品が落下する可能性があります。また、これらのケーブルが、コネクタから抜け落ちる可能性も高くなります。そのため本製品をこのような場所に設置して運用される場合は、市販の結束ファスナーなどを使用して、DCコードとEthernetケーブルを棚の支柱などにしっかりと固定するなどの対策をとり落下防止を行ってください。

**【接続のご注意】**

本製品の設置と設定はネットワークを構成するコンピュータに以下の条件を前提として説明しております。以下の内容をよくお読みになり正しい設置と設定を行ってください。

本製品の設定用には既存のネットワークから独立したコンピュータをご使用ください。

工場出荷状態のまま本製品を使用中のネットワークに接続しないでください。工場出荷状態のまま本製品を使用中のネットワークに接続すると、IPアドレスの競合など、不測の事態を招くおそれがあります。

本製品の設定用のコンピュータには、Ethernetカード（アダプター）が装備されている必要があります。Ethernetカード（アダプター）が装備されていない場合は、別途ご購入いただき、カード（アダプター）に付属されている取扱説明書にしたがってドライバーの組み込みと動作確認を済ませておいてください。

本製品の設定用のユーティリティは付属のCDに入っています。そのため、本製品の設定用コンピュータにはCD-ROMドライブが接続されている必要があります。

本製品に接続される無線端末に使用される無線LANカード（ユニット）は、それぞれに付属している取扱説明書にしたがい、あらかじめドライバーの組み込みと動作の確認を済ませておいてください。

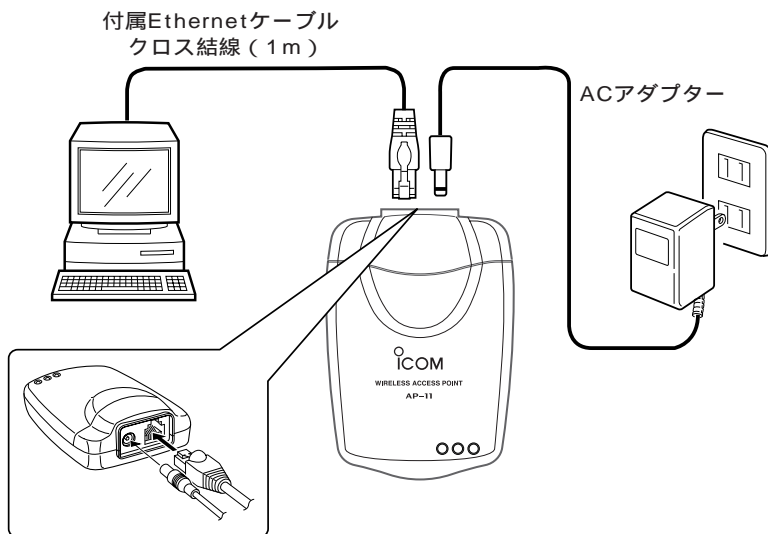
本製品に接続される全ての無線端末のネットワークの設定を必ず「インフラストラクチャーモード」にしておいてください。

本製品および本製品に接続される無線端末のESSID、WEPキーは全て同じ値に設定してください。この値が異なると、本製品と無線端末間のデータ通信ができません。

5

接続する

5-1 本製品設定時のコンピュータとの接続



上記の接続は、アクセスポイントを設定、もしくはアクセスポイントの設定内容を変更する場合の接続例です。

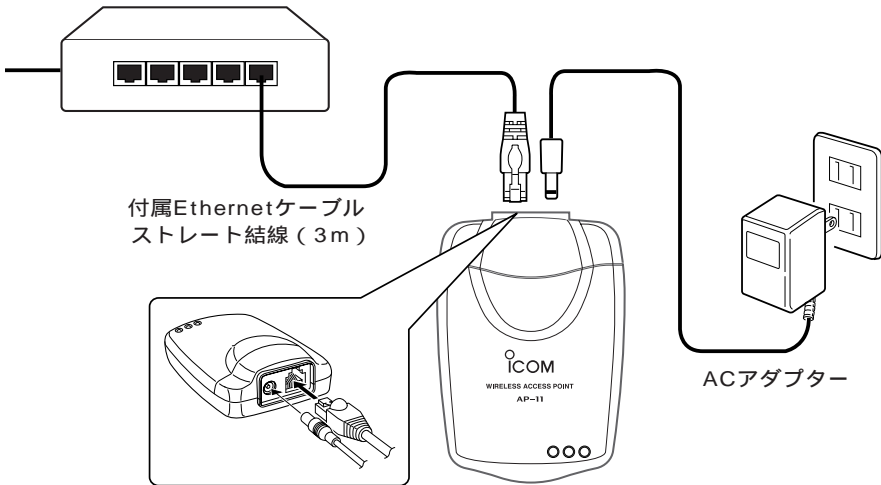
設定値の変更は、必ず付属のユーティリティ「AP-11マネージャ」を使って行ってください。

付属のユーティリティはMicrosoft社製OS、Windows98、Windows98SE、WindowsME、Windows2000に対応しています。(APPLE社製OSには対応していません。)

- 付属のEthernetケーブルには、HUBとの接続用のストレート結線(3m)のものと本製品設定用のクロス結線(1m)のものがあります。
- ストレート結線(3m)のケーブルは本製品の設定用には使用できません。また、クロス結線(1m)のケーブルはHUBとの接続には使用できません。お間違えにならないようご注意ください。

Ethernetケーブルの抜き差しは、コネクター部分を持って行ってください。

5-2 ネットワークへの接続（HUBとの接続）



上記の接続は、アクセスポイントを使用中のネットワークに接続する場合の接続例です。本製品の設定後、使用中のネットワークに接続されているHUBに付属のストレート結線のEthernetケーブル（3m）を使って接続してください。

付属のEthernetケーブルには、HUBとの接続用の3mのストレート結線のものと本製品設定用の1mのクロス結線のものがあります。HUBとの接続には、必ずストレート結線（3m）のEthernetケーブルをご使用ください。

付属のクロス結線（1m）のケーブルはHUBとの接続には使用できません。また、付属のストレート結線（3m）のケーブルは本製品の設定用には使用できません。お間違えにならないようご注意ください。

Ethernetケーブルの抜き差しは、コネクター部分を持って行ってください。

6 コンピュータの設定

6-1 セットアップウィザードを使う

本製品を設定するためには、本製品を設定用のコンピュータに接続できるようIPアドレス(TCP/IP)を変更する必要があります。このIPアドレスの変更を、本製品付属ユーティリティCD内の[簡単セットアップウィザード]を使用して簡単に行うことができます。

簡単セットアップウィザードの起動の前に

あらかじめ、本製品と設定用コンピュータを付属のクロス結線(1m)のEthernetケーブルで接続しておきます。付属のACアダプターの出力ケーブルを本製品のDCジャックに接続し、ACアダプターをコンセントに接続しておいてください。

・本製品の[POWER]ランプが点灯します。

【簡単セットアップウィザードの起動と設定】

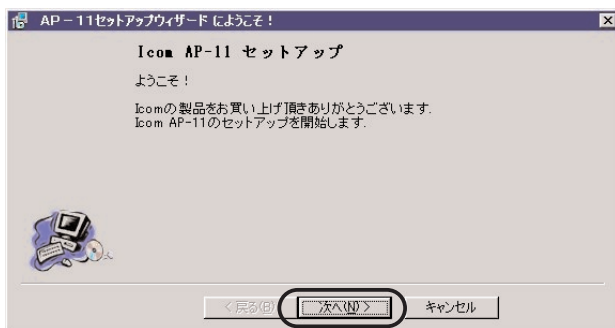
1. 現在起動しているアプリケーションを全て終了させます。
2. 付属のユーティリティCDをコンピュータのCD-ROMドライブに挿入します。
3. CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、AP-11の[ユーティリティ インストール]と[簡単セットアップウィザード]の設定メニューが画面に表示されます。

CD-ROMドライブのAuto Runがスタートしない場合は、マウスを スタート [ファイル名を指定して実行(R)]を選択し、クリックします。コマンドラインボックスに[D :¥AP-11 ¥AutoRun.exe]を指定してから OK をクリックします。



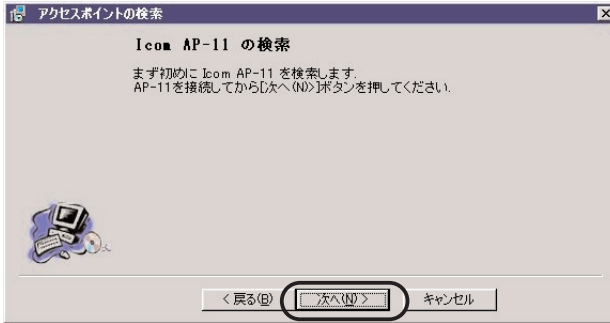
CD-ROMドライブがDドライブの場合。

5. [簡単セットアップウィザード]をクリックします。
[AP-11セットアップウィザードによるこそ!]が表示されます。
6. 次へ(N) ボタンをクリックします。
マウスでクリックする代わりに、キーボードの[Alt]キーを押しながら[N]キーを押しても同様に操作できます。

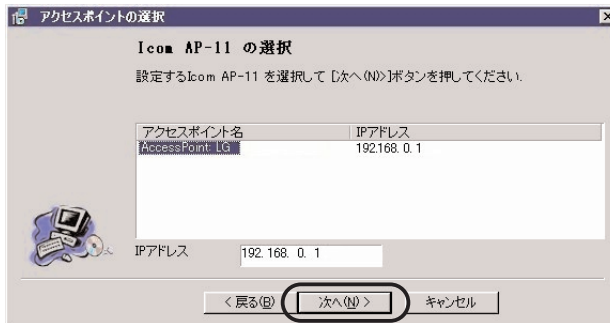


【簡単セットアップウィザードの起動と設定】(続き)

7. 次へ(N) ボタンをクリックして、AP-11を検索します。



8. 設定をするアクセスポイント名をクリックし、次へ(N) ボタンをクリックします。



設定用コンピュータがすでに持っているIPアドレスによって本製品と接続できない場合とできる場合があります、次へ(N) ボタンをクリックしたあとに表示される画面が異なります。

接続できなかった場合；次項（9項）以降の設定が必要です。

接続できた場合；14項以降の設定を行ってください。

AP-11の工場出荷時のIPアドレスは192.168.0.1、サブネットマスクは255.255.255.0です。

このため、設定に使用するコンピュータのIPアドレスが192.168.0.10、サブネットマスクが255.255.255.0などに設定され、本製品と接続できる環境にある場合は、9項（次ページ）の画面は表示されず直接14項（17ページ）の画面が表示されます。表示された画面に応じて設定を続けておこなってください。

6 コンピュータの設定

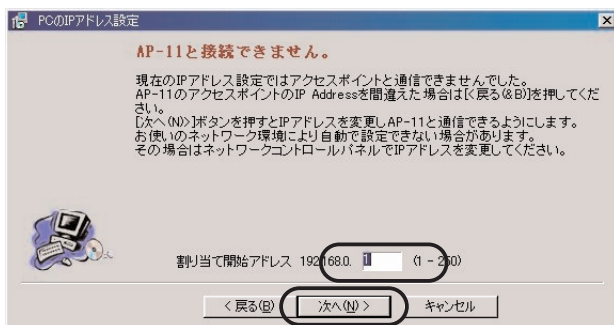
【簡単セットアップウィザードの起動と設定】(続き)

9. 設定用コンピュータが本製品と接続できない場合、コンピュータのIPアドレスを変更する画面が表示されます。本製品の工場出荷時に設定されているIPアドレスと重複しない値を設定して、次へ(N) ボタンをクリックします。

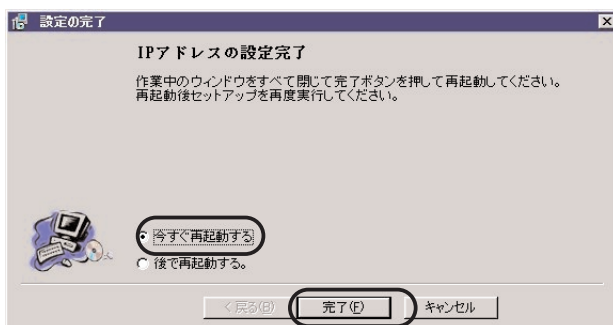
本製品の工場出荷時のIPアドレスは192.168.0.1です。ボックス内には、[10]などの、[1]以外の値を設定します。

ここでは、AP-11と接続するため仮のIPアドレスを設定します。

(設定用コンピュータのIPアドレスが172.20.11.1、サブネットマスクが255.255.0.0の場合を仮定して設定を行います。)



10. [今すぐ再起動する]を選択し、完了(F) ボタンをクリックします。



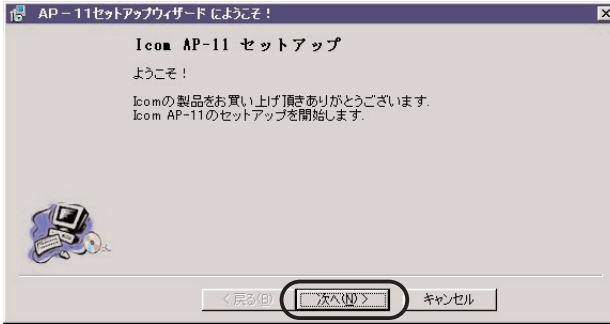
コンピュータが自動的に再起動します。

【簡単セットアップウィザードの起動と設定】(続き)

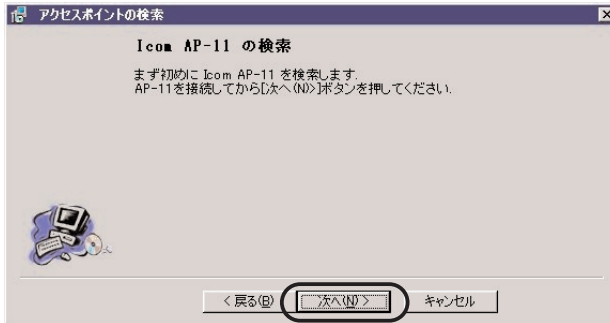
11. コンピュータが再起動後、自動的に「セットアップウィザード」が再起動します。

「セットアップウィザード」が自動的に再起動しなかった場合は、再度「簡単セットアップウィザード」を起動させてください。

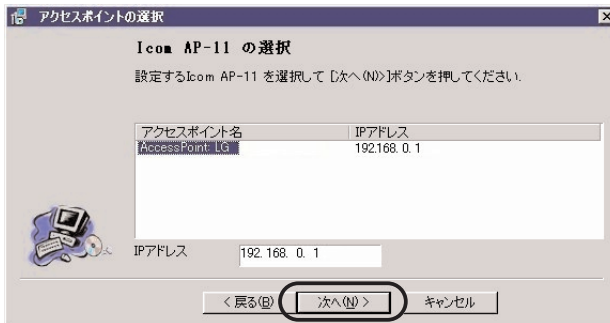
次へ(N) ボタンをクリックします。



12. 次へ(N) ボタンをクリックします。



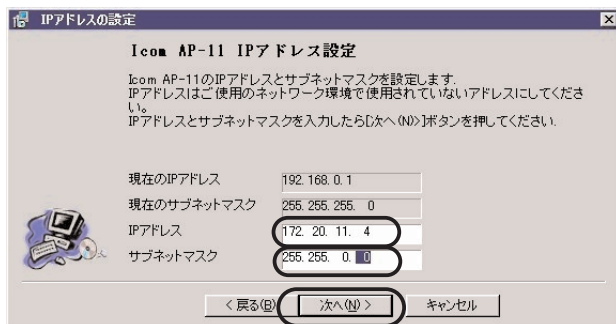
13. 先ほど選択した（8項参照）アクセスポイント名をクリックし、次へ(N) ボタンをクリックします。



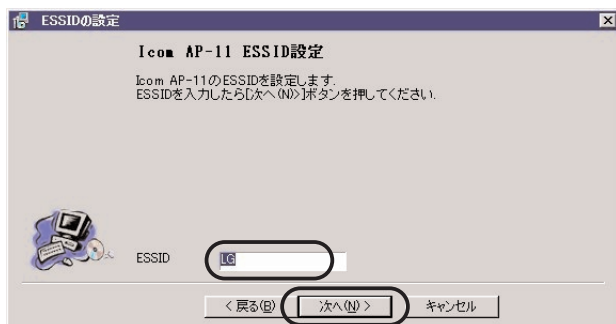
6 コンピュータの設定

【簡単セットアップウィザードの起動と設定】(続き)

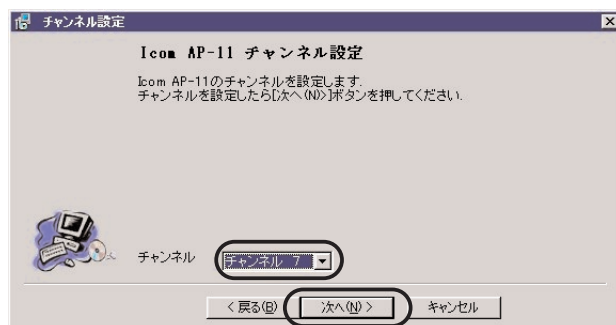
14. 本製品のIPアドレスとサブネットマスクを、設定用のコンピュータと同じになるように設定します。IPアドレスは、他の機器の設定値と重複しないよう注意してください。
- ここでは例として、IPアドレス：172.20.11.4、サブネットマスク：255.255.0.0を入力します。次へ(N) ボタンをクリックします。



15. ネットワークで使用するESSIDを入力します。ここでは、初期値(ESSID: LG)そのままとします。次へ(N) ボタンをクリックします。

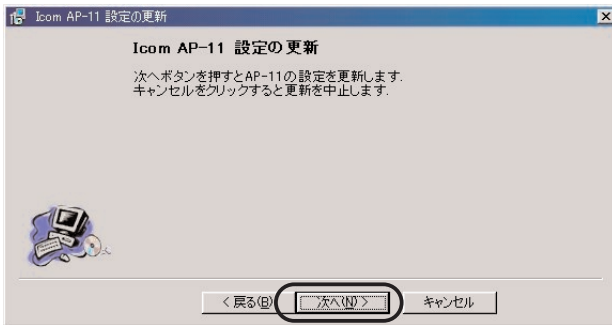


16. 通信に使用するチャンネルを設定します。ここでは、初期値(チャンネル: 14)そのままとします。次へ(N) ボタンをクリックします。

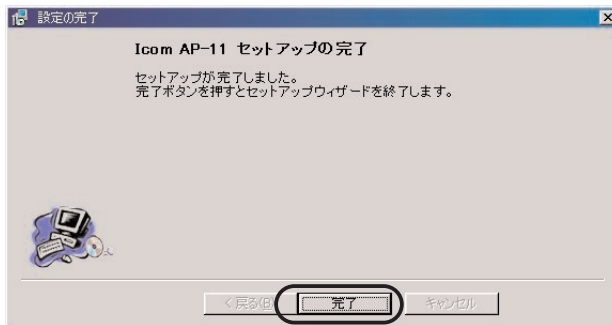


【簡単セットアップウィザードの起動と設定】(続き)

17. 次へ(N) ボタンをクリックします。



18. 完了 ボタンをクリックします。



19. 「いますぐ再起動しますか」という画面が表示されたら、はい(Y) ボタンをクリックします。

8項の設定でコンピュータと本製品が接続できた場合、再起動を促す画面は表示されません。この場合再起動の必要はありません。

20.自動的にコンピュータが再起動します。

- この設定により、本製品のIPアドレスとサブネットマスクは、設定用のコンピュータと同じ環境に自動的に設定され、AP-11マネージャを使って接続できるようになります。
- より高度なセキュリティーを設定する場合や、本製品のIPアドレス、サブネットマスクの設定を行うには7章(次頁より)のユーティリティーソフトウェア「AP-11マネージャ」を使用します。

【ご注意】

[セットアップウィザード]はインストールされません。[セットアップウィザード]を使用する場合は、必要に応じてCDから起動してください。

なお、[セットアップウィザード]と[AP-11マネージャ](7章)は、同時に起動できません。[セットアップウィザード]を使用される場合は、必ず[AP-11マネージャ]を終了しておいてください。(AP-11マネージャの終了方法は、21ページを参照してください。)

6 コンピュータの設定

6-2 ユーティリティソフトウェアをインストールする

本製品の設定用ユーティリティソフトウェア（AP-11マネージャ）をインストールします。

【ユーティリティのインストールの前に】

あらかじめ、本製品と設定用コンピュータを付属のクロス結線のEthernetケーブルで接続しておきます。付属のACアダプターの出力ケーブルを本製品のDCジャックに接続し、ACアダプターをコンセントに接続しておいてください。

・本製品の[POWER]ランプが点灯します。

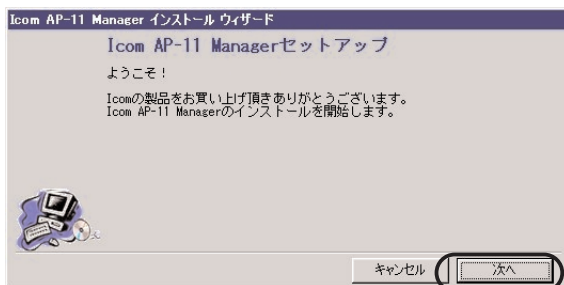
【ユーティリティソフトウェアのインストール】

- 1.現在起動しているアプリケーションを全て終了させます。
- 2.付属のユーティリティCDをコンピュータのCDドライブに挿入します。
- 3.CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、AP-11のユーティリティ インストールと簡単セットアップウィザードの設定メニューが画面に表示されます。

CD-ROMドライブのAuto Runがスタートしない場合は、マウスをスタート [ファイル名を指定して実行(R)]を選択し、クリックします。コマンドラインボックスに「D : ¥ A P - 1 1 ¥ AutoRun.exe」を指定してから OK をクリックします。

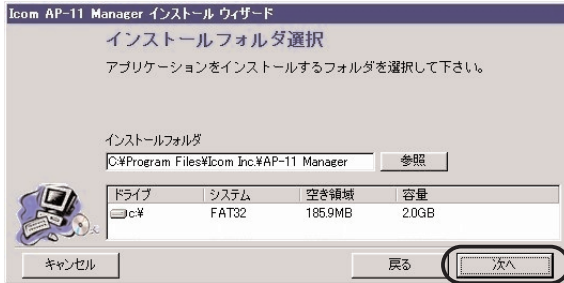
CD-ROMドライブがDドライブの場合。

- 4.[ユーティリティ インストール]をクリックします。
次へ(N) ボタンをクリックします。
5. 次へ(N) ボタンをクリックします。



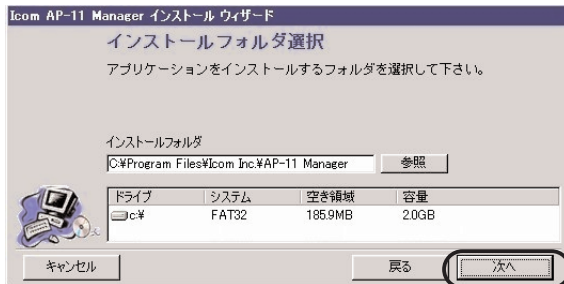
【ユーティリティソフトウェアのインストール】(つづき)

6. 次へ をクリックします。

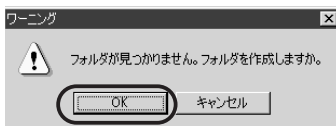


7. このユーティリティのインストール先のフォルダーを指定して、次へ をクリックします。

表示されているインストール先を変更したいときだけ、参照 をクリックして変更先のフォルダーを指定します。



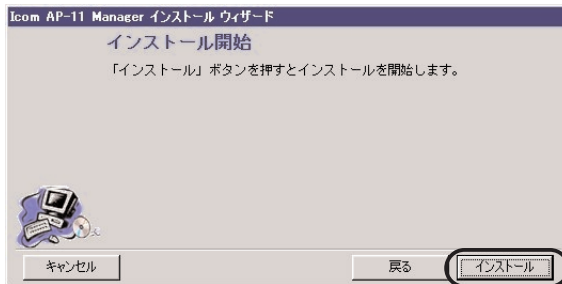
8. 「新規フォルダの作成」の、確認メッセージが表示されますので、OK をクリックします。



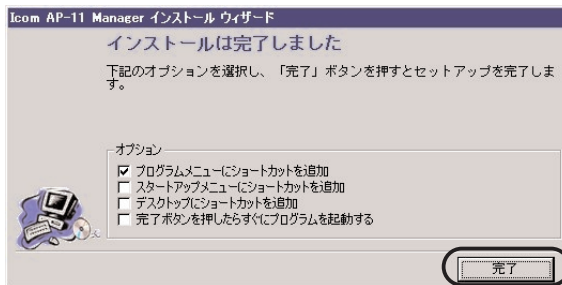
6 コンピュータの設定

【ユーティリティソフトウェアのインストール】(つづき)

9. インストール をクリックします。



10. 完了 をクリックしてインストールが完了します。



11. 終了 をクリックしてメニューを終了します。



【ご注意】

「AP-11 マネージャ」のアンインストールは、「8章こんなときは」をご覧ください。

AP-11マネージャの起動

コンピューターにインストールされた「AP-11マネージャ」の起動と終了のしかたについて説明します。

【起動の手順】

1.本製品のEthernetポートと設定用コンピューターに取り付けられているEthernetアダプター（カード）のEthernetポートを、付属のクロス結線のEthernetケーブル（1m）で接続します。

必ず、付属の付属のクロス結線のEthernetケーブル（1m）をご使用ください。

2.マウスを スタート [プログラム(P)] [AP-11 Manager]の順番に操作すると、AP-11マネージャが常駐を示すアイコンがタスクバーに表示されると起動が完了です。



【終了の手順】

1.AP-11マネージャを終了するときには、カーソルをそのアイコンの上に移動して、右クリックすると表示するポップアップメニューから「終了」を選択します。



7 AP-11 マネージャ

アクセスポイントに接続する

本製品を使うために必要な設定とWEPを使用する高度なセキュリティの設定がAP-11 マネージャでできます。

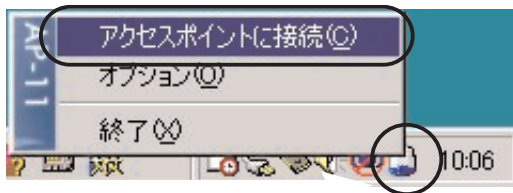
【接続のしかた】

本製品のEthernetポートと設定用コンピュータに取り付けられているEthernetアダプター（カード）のEthernetポートを、付属のクロス結線のEthernetケーブル（1m）で接続します。

接続しない場合、設定はできません。

付属のストレート結線のEthernetケーブル（3m）はここでは使用できません。

1. タスクバー上に表示されたアイコンを右クリックして表示するメニューから、[アクセスポイントに接続 (C)] を選びます。
2. アクセスポイントに接続 (C) タブをクリックします。

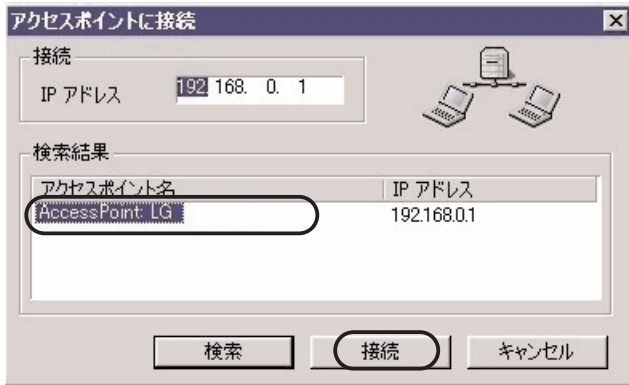


3. [アクセスポイントに接続] の 検索 ボタンをクリックします。

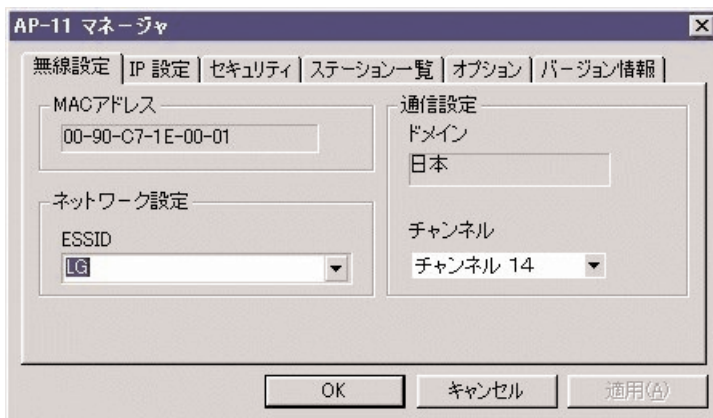


【接続のしかた】(つづき)

4. 検索結果の欄に接続可能なアクセスポイント名と現在のIPアドレスが表示されます。
(2台以上のアクセスポイントに接続可能な場合は、その台数分表示されます)
5. 接続するアクセスポイント名をクリックし、 接続 ボタンをクリックします。



6. 接続されたアクセスポイントのAP-11 マネージャメニューが表示されます。
このメニューから [無線設定] [IP設定] [セキュリティ] [ステーション一覧] [オプション] の設定および [バージョン情報] を得ることができます。



(AP-11 マネージャメニュー)

【エラー】

「アクセスポイントに接続できませんでした」というエラーメッセージが表示される場合があります。これは「簡単セットアップウィザード」での設定に失敗した場合です。この場合は、「8章こんなときは」にしたがって、設定用コンピュータのIPアドレス、サブネットマスクを手動で設定してください。

7 AP-11 マネージャ

無線設定

このメニューではアクセスポイントと無線LANカード（ユニット）との無線通信について設定します。

MACアドレス

本製品のMACアドレスが表示されます。この項目は変更できません。

MACアドレスは、それぞれのネットワーク製品に割り当てられた固有のもので、同じアドレスは存在しません。

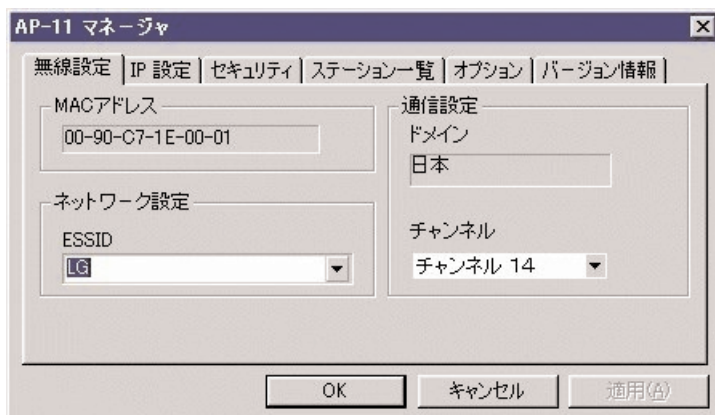
ネットワーク設定

ESSIDを設定します。（初期値：LG）

ESSIDは無線ネットワーク識別用の名前を任意に設定する項目です。

無線伝送可能エリア内に、無線ワークグループを複数構成していて、ネットワーク情報を他の無線ワークグループから見られたくないとき変更します。同じ無線ネットワークグループに対しては、同じESSIDを入力してください。異なるESSIDを設定すると通信できません。

設定値の入力は、大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字 32文字以内です。



【設定のしかた】(つづき)

ドメイン：

本製品のドメイン名を表示します。この項目は変更できません。

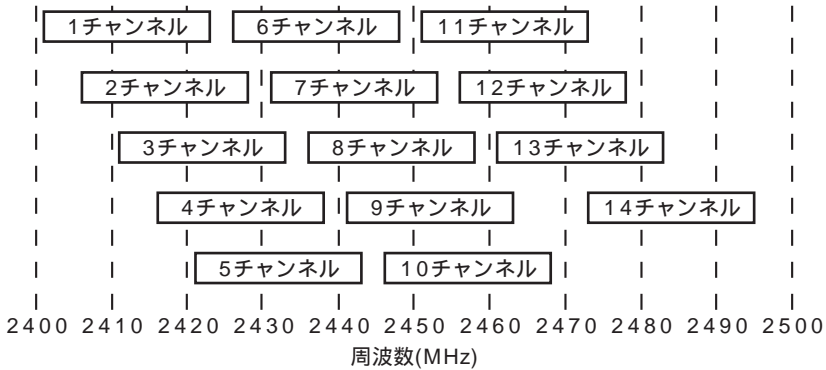
チャンネル

無線通信チャンネルを設定します。(初期値：チャンネル14)

複数のアクセスポイントを使用する場合は、下欄の注意を参考にしてチャンネルを設定してください。

通信チャンネル

無線伝送可能エリア内に、本製品を2台以上設置する場合は、混信を避けるためお互いのグループの通信チャンネルを4チャンネル以上間隔をあけて設定してください。通信チャンネルの間隔が3チャンネル以下に設定されると、図に示すように帯域幅の1部が重複するため混信する可能性があります。例えば、お互いの設定を1-6-11チャンネルに設定すると混信しません。



7 AP-11 マネージャ

IP設定

IPアドレス・サブネットマスクの設定

本製品を使用中のネットワークに接続するため、IPアドレス、サブネットマスクを設定します。

IPアドレス：本製品のIPアドレスを設定します。（初期値：192.168.0.1）

サブネットマスク：本製品のサブネットマスクを設定します。

（初期値：255.255.255.0）

【注意】

本製品は、DHCPサーバー機能を持っておりません。本製品のIPアドレスとサブネットマスクは手動で設定する必要があります。なお、無線端末に関しては接続されるネットワーク環境に応じて、「IPアドレスの自動取得」も可能です。（下記の例を参照）同一のネットワーク内における全てのコンピュータのIPアドレスは重複しないように設定してください。

同一のネットワーク内における全てのコンピュータのサブネットマスクは同じ値に設定してください。

（IPアドレス設定例）

本製品と3台の無線端末を使用する場合は、以下のように設定します。

本製品：192.168.0.40¹（サブネットマスク：255.255.255.0）

無線端末A：192.168.0.41²（サブネットマスク：255.255.255.0）

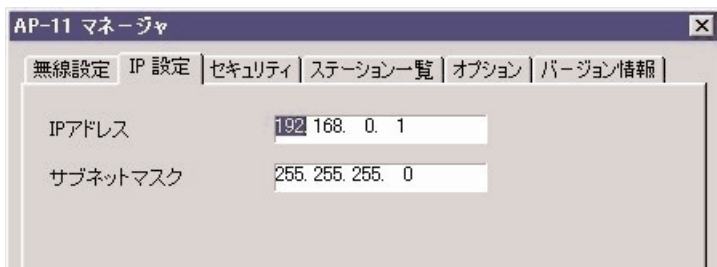
無線端末B：192.168.0.42²（サブネットマスク：255.255.255.0）

無線端末C：192.168.0.43²（サブネットマスク：255.255.255.0）

1 DHCPサーバー機能による自動設定との重複をさけるため、大きめに設定してください。

2 ネットワーク内にIPアドレスを自動的に設定するDHCPサーバー機能を持つ機器（ダイアルアップルーターなど）がある場合、無線端末側はDHCPサーバー機能による自動設定を使用することが可能です。この場合、無線端末側の設定を「IPアドレスを自動的に取得(O)」に設定してください。

DHCPサーバー機能を保有する機器の取扱説明書および無線端末に付属の取扱説明書等に従って設定を行ってください。



セキュリティ

無線ネットワーク間で通信するデータを保護するために、WEP(Wired Equivalent Privacy)に基づいてデータの暗号化設定を行います。

通信対象となるすべての相手間で、この画面で設定できる項目の内容が同じになるように設定しないと、通信ができません。

【注意】

WEPの設定は、はじめにAP-11側を設定し、その後各無線端末の設定を行うようにしてください。

WEP有効

WEP有効がチェックされていない場合、通信にWEPキーは使用されず、暗号化もされません。

キージェネレータ

暗号化および復号化に使う鍵を生成するための文字列を入力します。文字列を入力すると自動的に4種類のWEPキーがWEPキーのテキストボックスに生成されます。

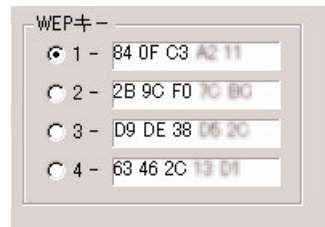
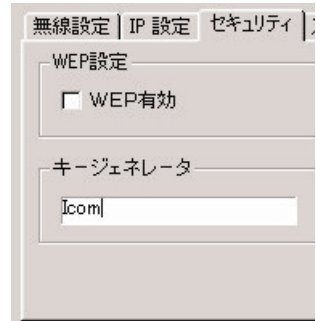
キージェネレータに同じ文字列を設定した場合、同じキー番号に同じWEPキーが生成されます。

使用するキー番号を [WEPキー] の項目で有効にすることにより、暗号化されたデータを正しく受信できます。

通信の対象となる相手間で同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字 30文字以内)を入力します。

入力された文字列が異なると、暗号化されたデータを復号できませんのでご注意ください。

暗号化および復号化に使う鍵を、キージェネレーターで設定する代わりに16進数表記で直接WEPキーのテキストボックスに入力することができます。(次ページ [WEPキー] をご参照ください。)

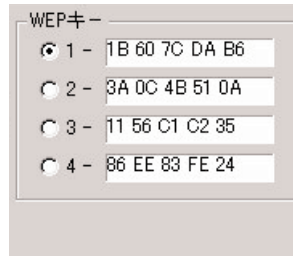


7 AP-11 マネージャ

【セキュリティ】(つづき)

WEPキー

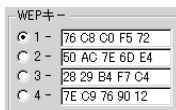
- ・ [キージェネレータ] に入力された文字列より自動生成されたキーの低位 40 ビット (16 進数 : 10 文字) が、[WEP キー] のテキストボックスに表示されます。
- ・ 暗号化に使うキーを各チェックボックス [1]、[2]、[3]、[4] のキー番号のうち、どれかをクリックして選択します。
- ・ チェックマークを入れたテキストボックスに表示された 16 進数の英数字を送信の暗号化に使用します。相手側では、同じキー番号の右にあるテキストボックスに同じ 16 進数の英数字が設定されているとき復号化(正しく受信)できます。



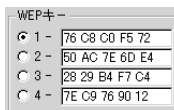
【WEPキーのカスタム設定】

- ・ [キージェネレータ] に文字列を入力する代わりに、16 進数表記(半角英数字)を使ってこのテキストボックスに直接入力することもできます。(10 文字まで)
- ・ 直接入力する場合、[キージェネレータ] のテキストボックスの入力は無効になります。
- ・ WEP キーをカスタム設定する場合、同じキー番号に同じ文字列を入力します。(例 1、2)
- ・ 同じキー番号に異なった WEP キーが設定されている場合はデータの通信が行えません。(例 3)
- ・ [オプション] の [設定値をマスクする] のチェックボックスにチェックが入っていると、表示が全て “ * * * ” になります。

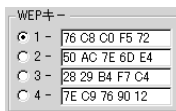
例 1



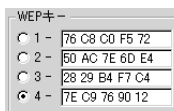
双方向通信可能



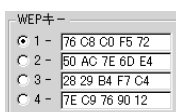
例 2



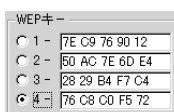
双方向通信可能



例 3



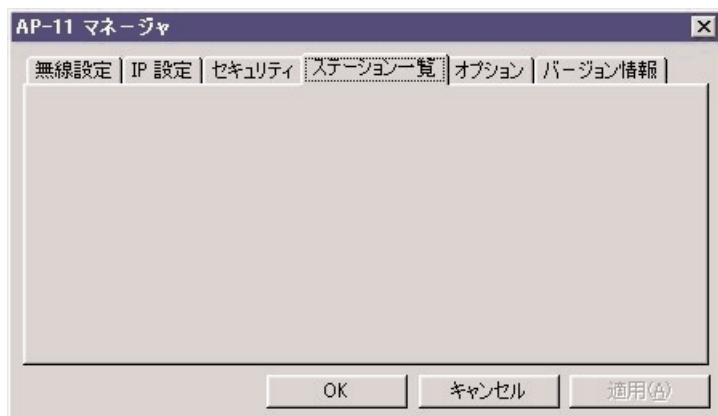
通信不可能



ステーション一覧

現行バージョンでは未対応ですので、表示されません。

バージョンアップにて対応を予定しております。



7 AP-11 マネージャ

オプション

【一般設定】

起動時にバナー画面を表示

AP-11 マネージャの起動時に表示されるバナー画面を非表示にすることができます。(初期値：オン)



アイコンアニメーション

タスクバーに表示されるアイコンによる動作状況を示すアニメーションを停止させることができます。タスクバー上のアイコン表示は消えません。

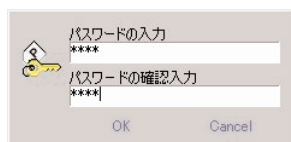
(初期値：オン)



【セキュリティ】

パスワードを有効にする。

このチェックボックスをクリックすることにより、AP-11 マネージャ起動時のパスワードを設定することができます。パスワードを設定しない場合、第三者にアクセスポイントの情報を盗まれたり、無断で設定を変えられるおそれがあります。また、パスワードは定期的に変更してください。



- ・パスワードは、半角英数で最大32文字です。大文字と小文字も区別されます。
- ・パスワードを変更する場合は、いったんチェックボックスのチェックをはずしてから適用 ボタンをクリックしてください。

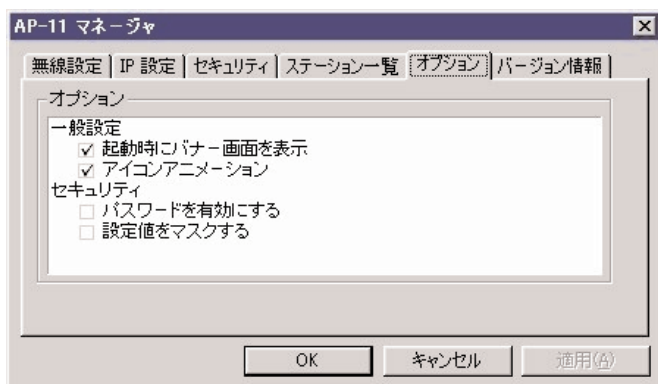
設定値をマスクする。

1 - ** * * * * *

[セキュリティ]のWEPキーやキージェネレーターの情報を

非表示にすることができます。非表示状態では全ての設定値が、「* * * * *」で表示されます。

これらの機能は、適用 ボタンをクリックすることで有効になります。



バージョン情報

ユーティリティ：ユーティリティソフトAP-11マネージャのバージョンを表示します。

Icomホームページへ：AP-11が接続されたネットワークが、インターネットに接続されている場合、Icomホームページへ をクリックすると、自動的にアイコムホームページに接続することができます。



AP-11と接続できない：

AP-11マネージャを使用しても、目的のアクセスポイントに接続できない場合、

- (1) Ethernetアダプターが正常に動作していない
- (2) 「簡単セットアップウィザード」がIPアドレスの設定に失敗したという可能性が考えられます。

【ご注意】以下の説明は、本製品の設定に使用するコンピュータにあらかじめ10Base-TのEthernetカード（アダプター）が取り付けられていることを前提としています。もし、Ethernetカード（アダプター）が取り付けられていない場合は、別途お買い求めのうえ、カードに付属している取扱説明書に従って取り付けおよびドライバーの設定を済ませておいてください。

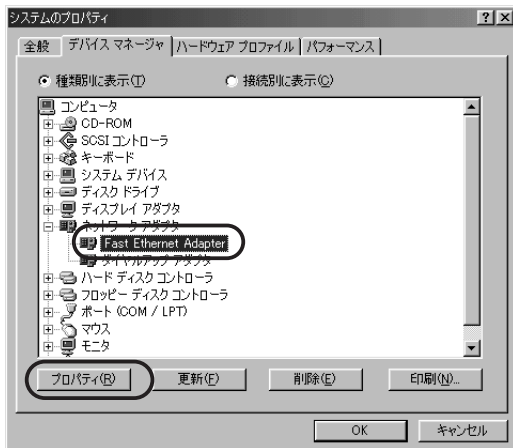
以下の説明は、Windows98の画面で説明しています。

Ethernetアダプターの確認

設定用コンピュータのEthernetカード（アダプター）が正常に動作していることを確認します。

【確認の手順】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)]の順番に操作します。
- 2.[コントロール パネル]画面の[システム]アイコンをダブルクリックします。
- 3.[デバイスマネージャ]タブ 「ネットワークアダプタ」の[+]をクリックします。



- 4.[Ethernet Adapter] < プロパティ(R) の順番にクリックします。
ドライバーが正しくインストールされていると、[Ethernet アダプター] を、右図のように表示します。

使用するアダプターの種類によって、表示される名称は異なります。

【確認の手順】(つづき)

[Ethernet アダプター]のアイコンに「！」や「×」マークがついていたり[?その他のデバイス]という項目に[Ethernet アダプター]が表示されるときは、ドライバーのインストールに失敗している可能性があります。このような場合、いったんドライバーを削除してドライバーの再インストールを行ってください。

5.[デバイスの状態]欄に、「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることを確認します。

表示されていれば、本製品は正常に動作していますので、OK をクリックすると、手順3.の画面に戻ります。



6.手順3.の画面で、OK をクリックします。

7.Ethernetカード (アダプター) が正常に動作しているときは、次ページの [IPアドレスの手動設定]に進みます。

8 こんなときは

IPアドレスの手動設定

本製品の設定用コンピュータのIPアドレスをセットアップウィザードを使用しないで設定するために必要な設定および確認の手順を説明します。

【注意】

IPアドレスを手動で設定する場合、必要に応じて変更前のアドレスに戻せるようメモを取るなどして記録しておいてください。

【設定の手順】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク]アイコンの順番に操作します。
- 2.[ネットワークの設定]画面の中に[TCP/IP]、[Microsoft ネットワーククライアント]が表示されていることを確認します。
表示されていないときは、ネットワークカードが正しくインストールされていない可能性があります。

[優先的にログオンするネットワーク(L)]が、[Microsoft ネットワーククライアント]となっていることを確認してください。

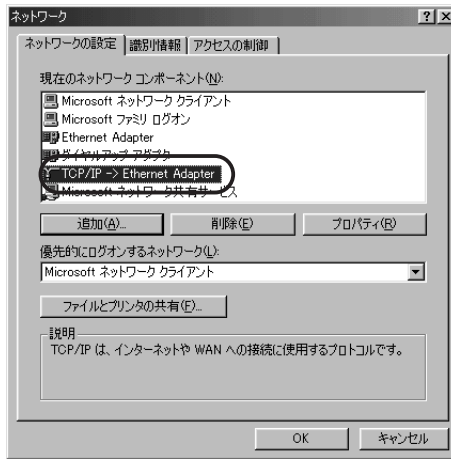
[ネットワークの設定]画面の中に、本製品設定用のネットワークアダプターは、[TCP/IP->今お使いのLAN カード (アダプター) 名称]と表示されますので、これを確認してください。



- 3.[TCP/IP] プロパティ(R) の順番にクリックします。

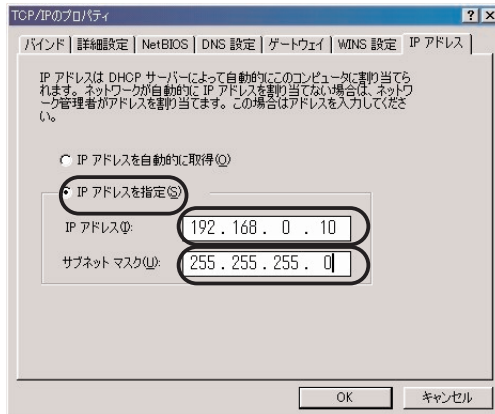
[ネットワークの設定]画面の中に、その他のネットワークアダプターも一緒に組み込まれている場合は、[TCP/IP]プロトコルの表記は、[TCP/IP->今お使いのLAN カード (アダプター) 名称]で表示されますので、これをクリックしてください。

【設定の手順】(つづき)



- 4.[IPアドレス]のタブをクリックします。
 - 5.[IPアドレスを指定(S)]のオプションボタンをクリックしてチェックマークを付け、[IPアドレス ; 192.168.0.10]、[サブネットマスク 255.255.255.0] を入力し、OK ボタンをクリックします。
- 本製品のIPアドレス、サブネットマスクが工場出荷時の場合です。

8



- 6.手順3.の画面に戻りますので OK をクリックします。
 - 7.再起動を促す画面が表示されたら、OK をクリックします。
- コンピュータの再起動後、[AP-11 マネージャー]を起動して本製品の設定を行います。

本製品への接続を確認するには

それぞれのステーション(端末群)のIPアドレスを正しく設定できているかどうかは、IPパケットが通信先に正しく届いているかを、相手のステーションを“ping (ピング)”することによって簡単に確認できます。

この確認を行うには、MS-DOSのウィンドウを開き、下記のコマンドを入力します。

```
“ ping xxx.xxx.xxx.xxx ”
```

xxx.xxx.xxx.xxxには、本製品のIPアドレスを入力します。

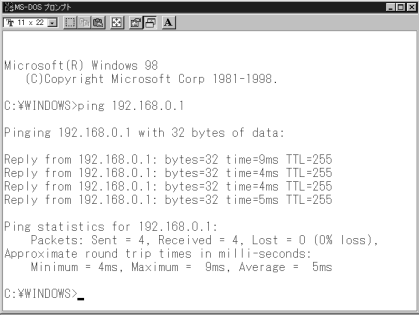
これによって4回ピング(エコー要求)が送出され、それに対して応答メッセージが返ってきます。

“ reply ”が返ってこない場合は、ステーションのプロトコルの有無や無線通信LANカードの設定(Network Mode、ESS IDなど)を確認してください。

お互いのIPアドレスとサブネットマスクが正しく設定されていないと、“ destination unreachable ”を表示します。

pingコマンド実行例(正常な場合)

Windows 98



```
Microsoft(R) Windows 98
(C) Copyright Microsoft Corp 1981-1998.
C:\WINDOWS>ping 192.168.0.1
Pinging 192.168.0.1 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=9ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=4ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=4ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=5ms TTL=255

Ping statistics for 192.168.0.1:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 4ms, Maximum = 9ms, Average = 5ms
C:\WINDOWS>
```

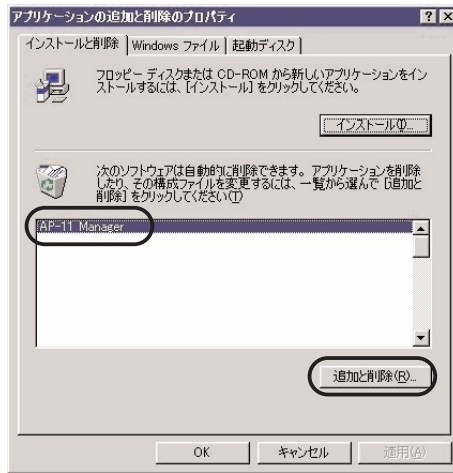
AP-11 マネージャのアンインストール

付属ユーティリティ-AP-11 マネージャをコンピュータから削除する手順について、Windows 98 を例に説明します。

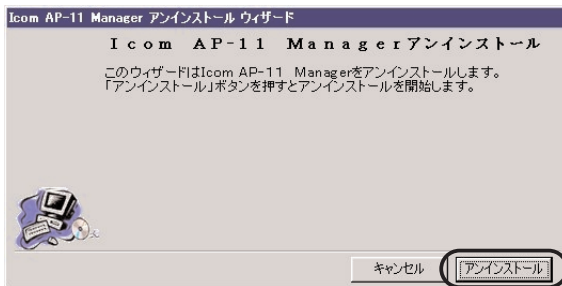
そのほかの OS をご使用の場合は、この手順を参考に、その OS でアンインストールするときの手順に従ってください。

【アンインストールの手順】

1. マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [アプリケーションの追加と削除] の順番に操作します。
2. インストールと削除の画面の [AP-11 Manager] をクリックし、追加と削除(R)... ボタンをクリックします。

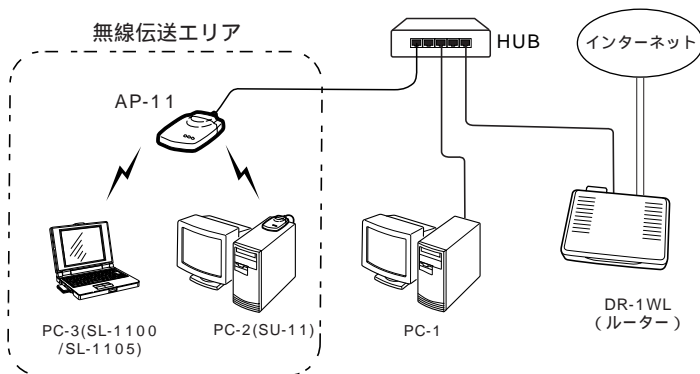


3. [AP-11 Manager アンインストール ウィザード] が起動しますので、アンインストール ボタンをクリックします。



本製品を使用した無線ネットワークの設定例

本製品と弊社ワイアレスISDNルーターDR-1WL、弊社無線LANカードSL-1100（またはSL-1105）および、ワイアレスLANユニットSU-11にデスクトップパソコン1台を下図のように接続する場合のIPアドレスの設定例です。



【DR-1WLの設定】

IPアドレス：192.168.0.1
 サブネットマスク：255.255.255.0
 DHCPサーバー機能：使用する
 割り当て開始IPアドレス：192.168.0.10
 割り当て回数：30個

【PC-1（デスクトップパソコン）】

Ethernetカードが必要です。
 IPアドレスはDR-1WLのDHCPサーバーから自動的に割り当てられます。[ネットワークの設定]、[現在のネットワークコンポーネント]中の、TCP/IPのプロパティで[IPアドレスを自動的に取得]のチェックボックスをクリックしてください。

その他の設定は、ご使用になる機器の取扱説明書にしたがって設定してください。

【AP-11の設定】（手動設定）

チャンネル：14
 IPアドレス：192.168.0.40
 サブネットマスク：255.255.255.0
 最後の桁は[40]以上を設定してください。[40]以下に設定するとDR-1WLの自動割り当てと重複する可能性があります。

【PC-2 (SU-11¹)】

IPアドレス：192.168.0.41²
 サブネットマスク：255.255.255.0²

【PC-3 (SL-1100/1105¹)】

IPアドレス：192.168.0.42²
 サブネットマスク：255.255.255.0²

- 1 ネットワークの設定：インフラストラクチャ
- 2 ネットワーク内にDHCPサーバーがある場合、[IPアドレスを自動的に取得]する設定もできます。

AP-11と各無線端末(PC-2, PC-3)のESSID、WEP（キージェネレーター、WEPの使用の有無）は同じ値に設定します。

10-1 設定項目の初期値について

本製品の設定画面について、工場出荷時の設定値を示しています。

[無線設定]

- ESSID : LG(半角大文字に設定)
- チャンネル : 14

[IP設定]

- IPアドレス : 192.168.0.1
- サブネットマスク : 255.255.255.0

[セキュリティ]

- WEPセキュリティ : 無効
- キージェネレーター : なし

[オプション]

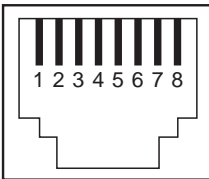
- 起動時にバナー画面を表示 : オン
- アイコンアニメーション : オン
- パスワードを有効にする : オフ
- 設定値をマスクする : オフ

10-2 機能一覧表

- 無線アクセスポイント機能
- 無線ローミング機能
- 無線セキュリティ
(ESSID、WEP)

10-3 [Ethernet]ポート

RJ-45型モジュージャック(8pin) × 1



1. 送信(+)
2. 送信(-)
3. 受信(+)
4. 未使用
5. 未使用
6. 受信(-)
7. 未使用
8. 未使用

11 お問い合わせについて

故障のときは

- 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- 修理を依頼されるとき

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とコンピューターの設定などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

- アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

一般仕様

一般仕様

- 国際規格 : IEEE802.11/IEEE802.11b
- 国内規格 : ARIB STD-33/ARIB STD-T66
- 通信方式 : 単信方式
- 電波方式 : 直接スペクトラム拡散(DS-SS)
- 使用周波数 : 2400 ~ 2497MHz(全14ch)
- データ伝送速度 : Max.11Mbps
- 伝送距離 : 屋内約30m (11Mbps時)
- 暗号化処理 : Wired Equivalent Privacy(WEP)
- 使用温度条件 : 温度0 ~ +55
- 保存温度条件 : 温度 -30 ~ +80 (結露しないこと)
- 内蔵アンテナ : パターンダイバーシティアンテナ
- 入力電圧 : DC7.5V ± 5% (専用ACアダプター使用時)
- 消費電流 : 送信時 450mA(TYP)、受信時 400mA(TYP)
- 外形寸法 : 100(W) × 30.5(H) × 70(D) mm(突起物を除く)
- 重量 : 約90g

送信部

- 送信出力 : 10mW/MHz以下
 - スプリアス発射強度
(14ch使用時) : 2.5 μW以下($f < 2458\text{MHz}$)
: 25 μW以下($2458\text{MHz} < f < 2471\text{MHz}$)
: 25 μW以下($2497\text{MHz} < f < 2510\text{MHz}$)
: 2.5 μW以下($2510\text{MHz} < f$)
 - (1 ~ 13ch使用時) : 2.5 μW以下($f < 2387\text{MHz}$)
: 25 μW以下($2387\text{MHz} < f < 2400\text{MHz}$)
: 25 μW以下($2483.5\text{MHz} < f < 2496.5\text{MHz}$)
: 2.5 μW以下($2496.5\text{MHz} < f$)
- 上記のfは、使用周波数帯を除いた周波数を示す。

受信部

- 受信感度 : -76dBm以下(8×10^{-2}) FER (フレームエラーレート)
- 復調方式 : デジタル復調(マッチドフィルタ方式)
- スプリアス妨害限度
有線部 : 4nW以下(1GHz未満) 20nW以下(1GHz以上)
- LANインターフェイス : [Ethernet]ポート(RJ-45型) × 1
IEEE802.3/10BASE-T準拠
- 通信速度 : Ethernet部 : 10Mbps
無線LAN部 : 11Mbps(Max)
- ユーザインターフェイス : 状態表示ランプ : 3個(POWER、LAN、無線LAN-TX)

定格・仕様・外觀等は改良のため予告なく変更する場合があります。

13 用語解説

DHCPサーバー

DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)は、TCP/IPというネットワーク上で、クライアントがサーバーから必要な情報を自動的に取得するプロトコルです。

DHCPサーバーは、ネットワーク情報として、“IPアドレス”、“デフォルトゲートウェイ”、“ドメイン名”などを管理しています。

DHCPサーバー機能を持つ製品(弊社DR-1WLなど)は、DHCPクライアント(コンピューター)が起動すると、IPアドレスやデフォルトゲートウェイ、DNSアドレスなどを割り振ります。

ESS ID(Extended Service Set-Identifier)

無線LANで、複数のネットワークグループを通信可能なエリア内に形成するときの識別用の名前です。本製品と通信する無線ネットワークグループは、無線端末を本製品と同じ識別名に設定します。

Ethernet

ゼロックス社、DEC社、インテル社によって開発されたLANの通信方式です。使用するケーブルによって、10BASE-T、10BASE-5、10BASE-2などのタイプがあります。

IP(Internet Protocol)アドレス

TCP/IPプロトコルを使用して、構築されたネットワークにおいて、接続しているすべての機器を区別するために付ける32ビットのアドレスです。

通常は、8ビットずつ4つに区切って、10進数の数字列で表されます。(例: 192.168.0.1)

また、プライベートIPアドレスは、ネットワークの管理者が独自に設定するIPアドレスです。アドレス管理機関やプロバイダーに、申請を行う必要はありませんが、以下の規則従って割り振らなければなりません。

外部のネットワークと接続する場合にはアドレス変換を行い、グローバルIPアドレスに変換する必要があります。

次のIPアドレスをプライベートIPアドレスとして、自由に使用できます。

クラスA:

10.0.0.0 ~ 10.255.255.255

クラスB:

172.16.0.0 ~ 172.31.255.255

クラスC:

192.168.0.0 ~ 192.168.255.255

LAN(Local Area Network)

同一フロアや敷地内の比較的小さな規模のネットワークのことです。

MACアドレス

(Media Access Control Address)個々の有線または無線通信LANカードに設定されている物理アドレスです。

このアドレスは、LANカードの製造メーカーが世界中で重複しない独自の番号で管理しています。Ethernetでは、このアドレスを元にしてフレームの送受信をしています。

TCP/IP

Windows95/98、WindowsNTなど、主要なOSでサポートする現在最も普及したインターネットの基本プロトコルです。

SMTP、FTPなどは、このプロトコルを利用しています。

Open Transportを搭載したMacintoshには、TCP/IPコントロールパネルが標準で搭載されています。

URL(Uniform Resource Locator)

インターネット上のホームページなどにアクセスするために指定します。

弊社URLは、<http://www.icom.co.jp/>です。

WWWブラウザソフト

WWWホームページを閲覧したり、WWWサーバーを検索に使うアプリケーションです。

アプリケーションには、「Internet Explorer」や「Netscape Navigator」があります。

10BASE-T(テンベース・ティー)

ツイストペアケーブルを使ったEthernetの接続方式のことです。

10BASE-Tの[10]はEthernetの伝送速度10Mbpsを、[-T]はツイストペアケーブルをそれぞれ表わします。

アクセスポイント

有線LANと無線LANを接続する機器の総称です。

クライアント

ネットワークにおいて、サーバーに対し情報の提供などのサービスを要求し、その返答を受け取る端末またはアプリケーションの総称です。

グローバルIPアドレス

インターネット上のどの機器とも重複するものがない世界で唯一のアドレスです。

サブネットマスク

1つのIPアドレスをネットワークアドレスとホストアドレスに区別するために使用します。
あるホストのIPアドレスが「192.168.0.1」、サブネットマスクが「255.255.255.0」とすると、IPアドレスとサブネットマスクを2進数にして掛け合わせると、ネットワークアドレス「192.168.0.0」となり、のこり「1」がホストアドレスになります。

トラフィック

ネットワーク上のパケットの流れやネットワークの回線にかかる負荷(データ量)のことです。
トラフィックが大きくなると、データ転送の遅れやデータ欠落が起こる可能性があります。

ネットワーク

データなどを転送するために、サーバー、ワークステーション、コンピューターなどの機器が、ケーブルや電話回線を介して、通信網と接続された状態をいいます。

パケット

データが送受信されるとき単位です。
送受信に必要な情報を持つヘッダ部と、送りたいデータそのものであるデータ部から構成されています。

パスワード

ネットワークセキュリティ上、ユーザーがネットワークにアクセスするために入力する鍵となる文字列で、パスワードを設定すると、ユーザーがあらかじめ設定された文字列を正しく入力したとき、アクセスが可能になります。

ハブ(HUB)

本製品などを使用して、ネットワークを構築するときに必要な装置です。10BASE-Tケーブルを使って本製品と接続します。

フラッシュメモリー

本製品が持つ書き込みが可能な記憶装置です。
ここに貯えられた情報は電源を切っても消えないで保存されます。

プロトコル

通信で、データの送受信を行うときにしたがうべき手順の定義です。

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

| | | | |
|--------|----------|------------------|------------------|
| 本社 | 547-0003 | 大阪市平野区加美南1-1-32 | |
| 北海道営業所 | 060-0041 | 札幌市中央区大通東9-14 | TEL 011-251-3888 |
| 仙台営業所 | 983-0857 | 仙台市宮城野区東十番丁54-1 | TEL 022-298-6211 |
| 東京営業所 | 130-0021 | 東京都墨田区緑1-22-14 | TEL 03-5600-0331 |
| 名古屋営業所 | 466-0015 | 名古屋市昭和区御器所通2-24 | TEL 052-842-2288 |
| 大阪営業所 | 547-0004 | 大阪市平野区加美鞍作1-6-19 | TEL 06-6793-0331 |
| 広島営業所 | 733-0842 | 広島市西区井口3-1-1 | TEL 082-501-4321 |
| 四国営業所 | 760-0071 | 高松市藤塚町3-19-43 | TEL 087-835-3723 |
| 九州営業所 | 815-0032 | 福岡市南区塩原4-5-48 | TEL 092-541-0211 |

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。